第一審判決ヲ取消シ刑ヲ言渡シ其上告棄却セラレタルトキハ控訴裁判所ナリ然レトモ第一審ニ於テ刑ヲ言渡シタル判決ニ對シ控訴アリ第二審ニ於テ控訴棄却ノ判決アルモ拘留ヲ受ケタル被告人ハ刑事訴訟法第二百五十六條第二項ニ依リ控訴裁判所ノ所在地ノ監獄ニ在ルヲ以テ便宜ノ爲メ裁判所構成法第八十三條第一項ニ依リ第二審ノ檢事ニ於テ第一審裁判所ノ檢事ニ代リ執行ノ指揮ヲ爲スヲ今日ノ實際トス又上告裁判所ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲シタルトキハ被告人ハ下級裁判所所在地ノ監獄ニ在ルヲ以テ上告裁判所ノ檢事ハ執行ノ指揮ヲ第二審又ハ第一審ノ檢事ニ命シ其命ヲ受ケタル檢事ニ於テ執行ノ指揮ヲ爲スヘキモノト規定セリ

以上ノ如ク檢事ハ刑ノ執行、指揮、監督ヲ爲スニ止マリ執行ノ實行ヲ爲スハ或ハ行政官廳ニ在リ或ハ執達吏ニ在ルコトアリ

裁判執行ノ條件ノ原則

裁判執行ノ條件ノ原則

裁判執行ノ條件ノ原則トス(刑事訴訟法第三一七條第一項參照)我刑事訴訟法ハ刑ノ執行ノミニ付テスルヲ原則トス(第三一九條參照)其規定ヲ設ケ無罪、免訴、公訴不受理ノ判決ニ對スル執行ノ規定ヲ設ケス是レ勾留ヲ受ケサル被告人ニ對シ此等ノ判決確定スルモ執行ヲ爲スヘキ事項ナキヲ以テナリ然レトモ被告人勾留ヲ受ケタルトキハ右判決カ確定スル結果トシテ被告人放免ノ執行ヲ爲サヽルヘカラス此放免ノ執行モ亦無罪、免訴、公訴不受理ノ判決カ確定シタル後直チニ之ヲ爲スヘキモノトス又證人、鑑定人通事ニ對スル罰金ノ決定ニ付テモ法律ハ執行ノ規定ヲ爲サヽレトモ判決ノ執行ト同一ノ執行ニ出ツルノ外ナキナリ

例外

刑ノ執行ハ判決確定後直チニ之ヲ爲スヲ原則トスルト雖モ次ノ例外アリ

第一　死刑ノ執行ハ判決確定後直チニ之ヲ爲スヲ得ス(刑事訴訟法第三一八條參照)又懷胎ノ婦女ニ對シ死刑ヲ執行スルニハ分娩後一百日ノ猶豫ヲ置カサルヘカラス(刑法第一五條參照)立法上ヨリ觀察スレハ死刑及ヒ自由刑ニ於テハ被告人懷胎ノ外精神病其他ノ疾病ニ罹リタル場合ニハ刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ至當トス此場合ニ於テ刑ヲ執行スルモ刑ノ目的ヲ達シ得ヘキモノニ非サルナリ

第二　罰金、科料ノ執行ニハ多少ノ日時ノ猶豫アリ(刑法第二七條第三〇條參照)是レ此刑ノ性質ヨリシテ然ラサルヲ得サルモノトス

第三　一年以下ノ禁錮ニ處セラレタルトキハ情狀ニ因リ其執行ヲ猶豫ス（明治三八年三月法律第七〇號刑ノ執行猶豫ニ關スル法律參照）

右ノ例外ヲ除ク外ハ執行ヲ停止スル場合ナシトス故ニ自由刑ノ確定判決ヲ受ケタル者ニ對シ豫審判事カ他罪ニ付キ勾留狀ヲ發スルモ刑ノ執行ノ障礙ト爲ルコトナシ蓋シ勾留ハ豫審手續ニ附從スルモノニシテ獨立ノモノニ非ス豫審ヲ爲スニ當リテハ必ス勾留ヲ爲サヽルヘカラサルモノニ非ス此ノ如ク附從ノ性質ヲ有スルモノヽ爲メニ獨立ナル刑ノ執行ヲ妨ケラルルコトナキハ當然ナリトス

死刑執行ノ條件及方式

刑ノ執行ハ之ヲ嚴格ニ爲スヘキモノナルカ故ニ自由刑及ヒ罰金刑ノ執行ハ之ヲ分割シテ執行スルヲ得ス故ニ刑ノ執行ニ中斷、中止ナルモノナシ

私訴判決ノ執行ハ民事訴訟法ニ從フ（刑事訴訟法第二三條參照）

第二章　死刑ノ執行

死刑ハ刑法第十三條ニ依リ司法大臣ノ命令アルニ非サレハ之ヲ執行スルヲ得ス仍テ刑事訴訟法第三百十八條ニ於テ死刑ノ言渡確定シタルトキハ檢事ヨリ速ニ訴訟記錄ヲ司法大臣ニ差出スヘキコトヲ規定セリ斯ク司法大臣ノ命令ヲ待ツヘキ所以ハ司法大臣カ特赦ヲ奏請シ又ハ上告裁判所ノ檢事ヲシテ非常上告、再審ノ訴ヲ爲サシムル權ヲ有スルカ爲メニシテ司法大臣カ死刑ヲ言渡シタル判決ヲ認可スルモノニ非サルナリ而シテ司法大臣ヨリ命令アリタルトキハ三日內ニ其執行ヲ爲スヘキモノトス

死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ司法大臣ノ命令アルモ三日內ニ執行スルコトヲ得ス此場合ニハ檢事ヨリ司法大臣ニ其旨ヲ上申シ其執行ヲ停メ產後一百日ヲ經テ更ニ司法大臣ノ命令ヲ受ケ執行スルモノトス（刑法第一五條參照）（刑法附則第五條參照）又三日內ト雖モ大祀、令節、國祭ノ日ハ死刑ヲ行フコトヲ得ス（刑法第一四條刑法附則第四條參照）

死刑ノ執行ニハ檢事書記之ニ立會ヒ書記ハ其始末書ヲ作リ立會官吏ト共ニ署名捺印ス（刑事訴訟法第三二一條刑法附則第一條乃至第三條參照）

第三章　自由刑及ヒ財産刑ノ執行

自由刑及財産刑執行ノ條件及方式

自由刑ハ拘留ヨリ無期徒刑ニ至ルノ刑ニシテ財産刑ハ主刑罰金、附加罰金、科料、没收ナリ

自由刑ノ執行ハ檢事ノ指揮アリタル後ハ行政官ノ處分ニ屬シ監獄則ニ依リ之ヲ執行スルモノナリ而シテ死刑及ヒ自由刑ノ執行ヲ逃レタル者ニ對シテハ檢事ハ逮捕狀ヲ發スルヲ得(刑事訴訟法第三九條第二項參照)此逮捕狀ハ罰金、科料ノ刑ニ處セラレタル者ニ對シ刑法第三十七條第三十條ニ依リ輕禁錮又ハ拘留ニ換刑スル命令アリ之ヲ遁レタルトキニモ亦之ヲ發スルヲ得ヘシ蓋シ換刑ハ刑ノ執行方法ナリト雖モ既ニ之ヲ禁錮ニ換フレハ禁錮ノ執行ヲ遁レタル者ト謂フヲ得ヘケレハナリ

換刑

罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一箇月內ニ納完セシメ科料ハ十日內ニ納完セシムヘキ(刑法第二七條第三〇條第四二條參照)是レ其期間內其執行ヲ猶豫セシムルモノナリ若シ之ヲ期間內ニ納完セサルトキハ換刑處分ヲ檢事ヨリ請求セサルヘカラス

罰金、科料、訴訟費用、没收物件、追徵金ハ檢事ノ命令ニ依リ徵收シ破壞又ハ廢棄スヘキ没收物件ハ檢事之ヲ處分ス(刑事訴訟法第三二二條第二項第三三〇條參照)而シテ罰金、科料ハ期間內ニ納完セサレハ檢事ハ換刑處分ヲ請求スルノ外ナク民事訴訟法ニ從ヒ强制執行ヲ爲スコト能ハサルモ檢事ノ命令ニ從ヒ訴訟費用、追徵金ヲ納メサレハ檢事ヨリ其徵收ヲ執達吏ニ命シ民事訴訟法ノ强制執行ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ執行セシムルノ外ナキナリ刑事訴訟法ハ之ニ關スル規定ヲ設ケサルモ國家ノ處分ニ强制力ノ伴ハサルモノナケレハ其强制執行ヲ許サヽルノ意ニ非サルナリ

剝奪公權、停止公權ノ執行ハ當然執行セラルヽモノニシテ監視ハ刑法附則第二十一條以下ノ規定ニ依リ之ヲ執行ス

第四章　執行ニ對スル疑義及ヒ異議ノ申立

刑事訴訟法ハ刑ノ執行中疑義又ハ異議ヲ生シタルトキハ之ヲ執行指揮者ノ裁判ノ執行　自由刑及ヒ財産刑ノ執行　執行ニ對スル疑義及ヒ異議ノ申立

執行異議又ハ疑義トハ何ソ

判斷ニ任セス裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルコトヽセリ即チ刑事訴訟法第三百二十二條ニ依レハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其言渡ニ付キ疑義ノ申立又ハ其執行ニ付キ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘク而シテ其裁判ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ於テ決定スルコトヽセリ裁判所ハ此場合ニ執行官府又ハ司法行政ノ官府ノ資格ヲ以テ決定ヲ爲スニ非ス其裁判ハ均シク裁判權ノ作用ニ出ツルモノナリ故ニ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ハ法律ニノミ服從スル官府トシテ此決定ヲ爲シ此決定ニ對シテハ上級裁判所ニ抗告ヲ爲スヲ得ルモノトス

執行異議及疑義ノ申立ヲ爲シ得ル者

執行異議ノ申立ハ檢事ノ刑ノ執行ニ關スル指揮ニ對シ異議ヲ唱フルモノナレハ受刑人ヨリ之ヲ申立ツルヲ得ルノミニシテ檢事ヨリ之ヲ申立ツルヲ得ス又疑義ノ申立ハ判決主文ノ不明ヲ明カニスルモノナレハ檢事ヨリモ亦之ヲ申立ツルヲ得ルカ如シト雖モ第三百二十二條ノ法文ニ於テ明カニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者云々ト制限シタルヲ以テ檢事ヨリ之ヲ申立ツルヲ得ス仍テ檢事ハ判決主文ニ不明ノ廉アルモ自ラ之ヲ解釋シ其意見ニ從ヒテ之ヲ執行セサルヘカラス而シテ檢事ニ於テ其意見ニ從ヒテ之ヲ執行シ始メテ受刑人ハ執行ノ異議ヲ申立ツルヲ得ルニ至ルモノトス又疑義異議ノ申立ニ關スル決定ニ對シ抗告ヲ爲スヲ得ルコトヲ得ル者ハ受刑人ノミニシテ檢事ハ此決定ニ對シ抗告ヲ爲スヲ得ス是レ今日判例ノ認ムル所ニシテ又第三百二十二條ノ規定ヨリスルモ斯ク解釋スルヲ正當トス

執行異議又ハ疑義及申立ノ條件

執行ノ疑義及ヒ異議ノ申立ハ共ニ執行カ法律上許スヘキモノナルヤ否ヤノ問題ヲ目的物ト爲スモノニシテ刑ノ執行方法ニ付テ行ハルヽモノニ非ス故ニ執行疑義ノ申立ハ判決主文ノ解釋又ハ其確定力ノ範圍ニ付キ疑ヲ生シタルトキニ之ヲ爲スヘキモノニシテ判決ノ理由ニ疑アルモ此申立ヲ爲スヲ得ス蓋シ既ニ判決カ確定シ刑ヲ執行スルニ至レハ判決理由ノ不備ハ復タ何等ノ效果ヲモ生セサルモノナルモ之ニ反シテ判決主文カ不明ナレハ其刑ハ執行スル能ハサルモノナレハナリ又異議ノ申立ハ刑ノ執行カ許スヘカラサルニ拘ハラス之カ執行ヲ指揮シタル場合ニ之ヲ爲スヘキモノナリ例ヘハ既ニ期滿免除ヲ得タレハ刑ヲ執行スヘカラスト主張シ又ハ未決勾留ヲ刑期ニ算

入セスシテ執行スルハ不當ナリト主張スルカ如シ而シテ其刑ハ何人カ之ヲ執行スルヤヲ問ハス疑義、異議ノ申立ヲ爲スヲ得ヘシ故ニ警察官カ執行スル監視ノ執行ニ付テモ亦此申立ヲ爲スヲ得ヘク裁判所ハ之ヲ裁判セサルヘカラス或ハ疑義、異議ノ申立ハ司法行政ノ官府カ執行スル刑ニ非サレハ之ヲ爲スヲ得スト爲ス學說アレトモ法文ニ之カ區別ヲ設ケサルカ故ニ何人カ刑ヲ執行スルヤハ第三百二十二條ヲ適用スル標準タルモノニ非スシテ唯刑カ通常裁判所ノ判決ニ依リテ言渡シタルコトカ本條適用ノ標目タルモノトス

執行異議又ハ疑義ニ對シ申立スル裁判

疑義、異議ノ申立ヲ受ケタル裁判所ハ判決主文ヲ解釋シテ其裁判ヲ爲スニ止マリ新ニ刑ヲ言渡スコトヲ得ル權利ヲ有スルモノニ非ス故ニ判決主文ニ於テ刑期ヲ定メサルカ如キ塲合ニハ其刑期ヲ決定ヲ以テ定ムル能ハスシテ執行スヘキ刑ナキコトヲ言渡サヽルヘカラス

疑義、異議ノ申立ニ對スル裁判ハ決定ヲ以テスルカ故ニ書面審理ヲ以テス而シテ此申立アルモ刑ノ執行ヲ繼續スルノ妨ト爲ラス申立ニ對スル決定カ確定シテ始メテ刑ノ執行ニ變動アルモノトス

第五章　刑ノ執行ノ消滅原因

各個ノ消滅原因

刑ノ執行ハ受刑人ノ死去、期滿免除、執行ノ終了、大赦、特赦、減刑、復權又ハ執行猶豫ニ因ル免除等ニ因リテ消滅ス而シテ刑事訴訟法第三百二十四條以下ハ復權及ヒ特赦ノ手續ヲ規定ス刑事訴訟法ハ特ニ減刑ノ手續ヲ規定セサルモ減刑ハ特赦ノ一種ト看做シ特赦ノ手續ヲ之ニ準用スルモノト爲シタルモノナラン

復權ノ申立

復權、特赦、減刑ハ何レモ天皇ノ大權ニ屬ス（憲法第十六條參照）故ニ司法大臣ヨリ上奏シテ裁可ヲ受クヘキモノトス而シテ復權ハ刑法第六十三條ニ規定シタル條件ヲ具備シタル後受刑人ヨリ刑事訴訟法第三百二十五條ノ證憑書類ヲ添ヘ司法大臣ニ願出ツルヲ要シ特赦及ヒ減刑ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル檢事又ハ監獄署長ヨリ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ司法大臣ニ申立ツルコトヲ得又司法大臣ハ檢事又ハ監獄署長ノ申立ヲ待タス特赦、減刑ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ其他ノ事項ハ法文ニ就テ之ヲ知ルヘシ

刑事訴訟法新論 終

明治三十八年七月二十九日印刷
明治三十八年八月二日發行

刑事訴訟法新論奥附
正價金貳圓
本綴製本金貳拾五錢增

著者 豐島直通
發行者 江草斧太郎 東京市神田區一ッ橋通町七番地
印刷者 松澤玒三 東京市麹町區下六番町十七番地
東京市神田區三崎町三丁目壹番地
發行所 (電話本局二四〇九番) 日本大學
東京市神田區一ッ橋通町七番地
發賣所 (電話本局三二三番) 有斐閣書房

印刷所 東京市麹町區下六番町十七番地(電話番町三六九番) 同勢舍

不許複製

UU
360

14
360

036702-000-5

44-360

刑事訴訟法新論

豊島　直通／著

M38

BBS-0128